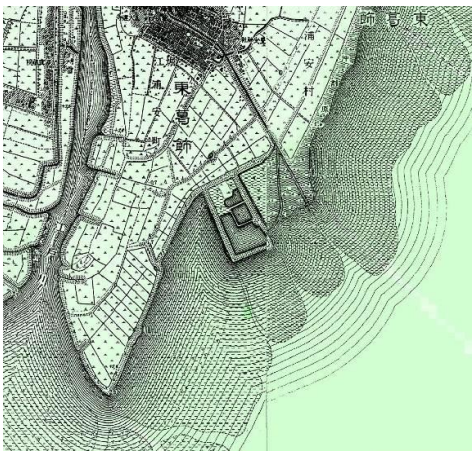
83-1　浦安元町（ほんとうの浦安？）めぐり　（距離約 10km）



浦安（明治 36 年）・（平成 10 年）

天正 18 年（1590）に徳川家康が江戸に入り、大阪の佃島の漁師をこの地に移り住ませことが、浦安漁業に大きな影響を与えた。さらに家康はこの地域を天領とし、塩生産の保護もしたという。いまでは、東京ディズニーランドがある町として知られている浦安の、本来の町（元町である猫実、当代島、堀江）を訪ねる。

【道順】

JR 新浦安駅→若潮公園（漁業記念碑）・今川橋→境川橋（水道橋・高架橋・ケーブル専用橋）→忠霊塔・文化会館・浦安市郷土博物館→境川東水門→郷土博物館→しおかぜ歩道橋・ベカ舟→左右天命弁財天→豊受神社（大イチョウ・富士塚）→境橋→猫実の庚申様→東京メトロ東西線浦安駅→浦安市場→善福寺→稲荷神社→船扒緑道→当代島水門→当代島船宿→境川西水門→西境橋→清瀧神社・大蓮寺→堀江ドック→堀江フラワー通り・旧宇田川家住宅→旧大塚家住宅→旧濱野医院→東学寺→境橋→焼き蛤のさつま屋→明治 38・39 戦役記念碑（希典）・中央公民館→浦安駅

ルートマップ

浦安市
当代島二丁目
当代島三丁目
当代島一丁目
北栄一丁目
東葛西三丁目
浦安橋
堀江西丁目
堀江二丁目
堀江一丁目
堀江五丁目
猫実五丁目
猫実四丁目
猫実三丁目
猫実一丁目
東野一丁目
東野二丁目
富岡一丁目
富岡二丁目
美浜三丁目
美浜一丁目
美浜二丁目
九船一丁目
新浦安駅
入船

【街歩き解説】

漁業記念碑

新浦安駅北口を西に進み、今川橋たもとの若潮公園には、800 年にわたる浦安の漁業史を長く後世に伝えるために昭和 51 年に若潮公園内に建立されたという記念碑がある。

台座石の上の船は「ベカ舟」を模したもので。台座の内部は地下資料室として漁業関係資料が保存されているのだという。路上、車道との間には、魚が口を空けた珍しいオブジェ風の石造り仕切りもある。

その先にある赤い橋は、猫実と堀江を分ける境川に架かる今川橋（昭和 45 年建築）。

＊**「ベカ舟」**：ベカ舟とは、東京湾で見られた一人乗りの海苔採取のための木造船である。山本周五郎の「青ベカ物語」で有名になった。平底、笹の葉型をしたもので、三角の帆を張ることもできる。

境川橋（水道橋・高架橋・ケーブル専用橋）

境川は浦安市中央を西から東に流れ、旧江戸川から分流点となる所に西水門がある。海面埋立てが始まる前の境川は長さ 1.7km ほどの短い川だったが海面埋立事業で川の長さも 3 倍の 4.8km となったという。

境川は漁師町浦安から海への玄関口として、昔は舟がぎっしり係留されていたという。1971 年の漁業権放棄後は 舟も少なくなり漁師町の面影を失った。水道橋、高速道路の高架橋、そして珍しいケーブル専用橋といったものもある。それぞれの地図での表現を確認して見る。

郷土博物館・しおかぜ歩道橋からベカ舟

郷土博物館、しおかぜ歩道橋・ベカ舟忠霊塔・文化会館、境川東水門から郷土博物館、しおかぜ歩道橋・ベカ舟

地図を広げると、等高線や標高点などから、この辺りはほぼゼロメートル地帯であることが明らかになる。したがって、この地域を流れる河川は干満の影響を受ける潮入川とな

り、高潮の際にはその影響を直に受けるだろう。したがって、河川の要所には高潮を防ぐための水門や内水を強制的に排除するための排水機場が多く見られる。境川東水門もその一つである。

境川近くにある郷土博物館は、浦安の人々が海とともにくらした時代を、歴史・民俗資料、情景再現（漁師の家、たばこ屋、三軒長屋、魚屋などの移築家屋展示）などで紹介している。

立派な建物の一角にあるしゃれたレストランでは、浦安名物アサリ丼が食べられる。

少し北へ進んだ、しおかぜ歩道橋辺りの水辺には、郷土資料館の所有するベカ舟が浮かべられている。そして、しんめい橋のたもとには風情のある木造民家がある。

左右天命弁財天

明治 17 年に、猫実の川島という人が「灰(へい)やのくるわ」(地域の旧名)の一角に建立したという、水に囲まれた弁天様の堂宇で、通称猫実の弁天様と呼ばれる。左右天命を祀っている。

この弁天様は、「灰やのくるわに災害が起こる前には、必ず女の姿になって現れ、火災を未然に教えてくれたり、大津波を予告したり、常に灰やのくるわの人達を救ってくれる」といわれ、地域の守り神として崇拝されてきた。

豊受神社（大イチョウ・富士塚）

創建保元２年（1157）浦安最古の神社、祭神は 豊受姫大神。

江戸時代の浮世絵師安藤広重が安政 3 年（1856 年）に浦安を描いた浮世絵 「名所江戸百景」の「堀江ねこざね」には境川周辺の集落と共に豊受神社が描かれている。

境内にある大銀杏は、村の人が境川河口を流れていた小さな木を拾い上げ、豊受神社の境内に植えたものだという。明治の末、高潮の塩害で枯れてしまったが、脇から目が出て現在の株立ちになった。この銀杏は六またに分かれ、根の周囲は 8m 高さ 14m ある。今なお繁茂している。

４年に１度（6 月）堀江の「清瀧神社」猫実の 「豊受神社」当代島の「稲荷神社」が浦安三社祭りを行う。

境橋

堀江と猫実集落の境を流れる川に架かる橋。境川、今は護岸で固められているが、昭和前期には、すぐ川に降りられて、川の水は飲料水や食器を洗うなど生活用水としていたという。川の両側は漁師の家があって、家は境川に近い方に土間、遠い方に客座敷が作られていたから、堀江と猫実では間取りが対称的であったという。

境橋と猫実の庚申様の前後は、かつての漁村の小路を思わせる路地をめぐりながら進む。

猫実の庚申様

「猫実」は、鎌倉時代、大津波で大きな被害を受けた集落の人達が豊受神社付近に堅固な堤防を築き、その上に大きな松の木を植え、今後はこの松に根を波浪が越さないように願ったことから「根越さね」といわれ、それがいつしか「猫実」と称されるようになったといわれている。

青面金剛菩薩を刻んだ庚申塔は、正徳5年（1715）１月、猫実村の庚申講の信者によって建てられた。門前には、力石とともに特徴的な2体の狛犬ならぬ狛猿が立つ。

浦安市場

浦安駅の北に50店ほどが入る昔懐かしい浦安市場がある。一般者向けの販売もあり、食堂もある。

善福寺・稲荷神社

宝暦6年（1756）建築だという立派な法篋印塔と、水路開削をした当代島の開墾王と呼ばれた田中十兵衛（1573-95）の墓が残る。土木技術にたけていた彼は、現鎌ヶ谷から真間川を経て、当代島までの用水を開削したという。

当代島の稲荷神社、堀江の清瀧神社、猫実の豊受神社をめぐれば、浦安の三社めぐりとなる。東京湾の小魚を追って鯨が居た証拠として 稲荷神社には明治8年に浦安沖で浅瀬の汐留まりに取り残された鯨を生け捕りした漁師が奉納した 「大鯨の碑」がある。

船扒（ふないり）緑道、当代島水門

かつての船圦川に整備された船圦緑道の人工水路にはウナギやあさりがいる？

船圦川が埋め立てられたことで、使われていない当代島水門の先には、旧江戸川が広がり、その向こうには都内23区内にある珍しい妙見島がみえる。M36の地図では、当代島水門の辺りに渡船の記号が見える。渡し場には、待合所があり、ここから対岸の現江戸川区東葛西を往復していたという。浦安橋の建築により廃止された。

当代島船宿

明治22年(1889)、当代島村、堀江村、猫実村の三村が合併し浦安村ができた。「当代島」の名の由来は二つあり、住民はこの土地を当代(現代の意)にできた島だという説と、昔ここの地に灯台があったからという説が残る。旧江戸川べりには、屋形船や釣り船が多く係留されていて、川岸には船宿の看板を掲げる家並みが見られる。

境川西水門、西境橋、清瀧（せいりゅう）神社、大蓮寺

特徴的にカーブする境川西水門あたりの道を東へと進み、西境橋から清瀧神社へと向かう。西境橋の南は、この地域では最も低い場所である。地形図を広げて等高線を確認して見るといい。

清瀧神社は、創建 1196 年、安政 2 年（1855）に再建。祭神は海の神様の大綿津見神（おおわたつみのかみ）。ケヤキの大木を買い求め、棟梁肥前松五郎が一本の木で建築したといわれている。　精巧華麗な彫刻が多く施されている。中でも正面の龍の彫刻および浦島太郎や竜宮城などの浮彫は見事で、高欄の下には海の神社にふさわしく、波間に千鳥の彫刻がある。そして、富士塚も残る。

清瀧神社の南大蓮寺境内の庭園は石組と山水表現を用いた「薬師如来瑠璃光浄土之庭」といわれるもの。

当代島船宿・リンドの江戸川原標（測水標石）

清瀧神社のリンドの江戸川原標（測水標石）

明治 5 年（1872）、オランダ人技師のひとり、Ｉ・Ａ・リンドは、江戸川筋と利根川筋に水位標を設置し、水位観測を行った。同時に、江戸川河口の浦安堀江から利根川河口の銚子の飯沼までの水準測量を行った。千葉県銚子市の飯沼観音（圓福寺）内には、飯沼水準原標石を設置し、利根川河口の飯沼に設置した水位尺（量水標）の零位を日本水位尺（J.P.，Japan Pei1）と名付け、水準測量の原点と定めた。

そして、江戸川・利根川でリンドが行った水準測量にもとづいて堀江水準標石を設置した。これは、「日本の河川測量の原点」とされる飯沼水準原標石とともに設置された日本最古の水準標石である。

リンドは堀江水準標石を設置し、江戸川堀江水位尺（量水標）の零位を江戸川水位尺（Y.P.，Yedokawa Peil）と名付けた。リンドの残した Y.P.は、現在でも河川の水位表記として使われており、利根川水系の河川工事・管理の基準のもとになっている。

堀江ドック

浦安唯一の港といえる船だまり。 たくさんの船が泊まり、漁師町浦安を代表する風景が広がる。

堀江ドック・旧宇田川家住宅

堀江フラワー通り、旧宇田川家住宅

堀江フラワー通りは浦安の繁華街で、最盛時には寄席のほか、映画館、日常雑貨、飲食店などが約 100 軒通りにひしめいていた。とくに、銭湯が 7～8 軒あって、漁師仲間の情報交換の場であったという。現在も 3 軒の銭湯が残っている。

旧宇田川家住宅は明治 2 年（1869 年）の建築で、年代の分かるものでは市内で最古の民家である。関東風町屋造りの店舗付き住宅で、名主の家から分家した家柄で、米屋、油屋、雑貨屋、呉服屋を営む商家、そして大正の初めには店の一部が改造されて浦安郵便局が開かれた。戦後は診療所となった。幕末から明治にかけての江戸近郊の町屋の形をよく伝えている。

旧大塚家住宅、旧濱野医院、東学寺

旧大塚家住宅は、江戸時代末期の建築と推定される。大塚家は漁業と農業を営み、浦安では比較的大きい家であった。建物屋根裏には 2 階があって、水害の際に避難し、家財を移動して被害を最小限にするために使用したという。

旧濱野医院は、昭和 4 年建築の浦安の洋風建築第 1 号であった。そして、浦安での西洋医学の医院第 1 号でもあった。同医院は明治から大正・昭和・平成まで濱野家三代にわたり、この地で医療を開業していた。

東学寺には、堀江村の与八郎が奉納したとの由緒が伝えられる、亀乗薬師如来が本尊としてまつられている。東学寺ののちは、かつての漁村の小路を思わせる路地をめぐりながら進む。

焼き蛤さつま屋、明治 38・39 戦役記念碑（希典）、中央公民館を経て浦安駅

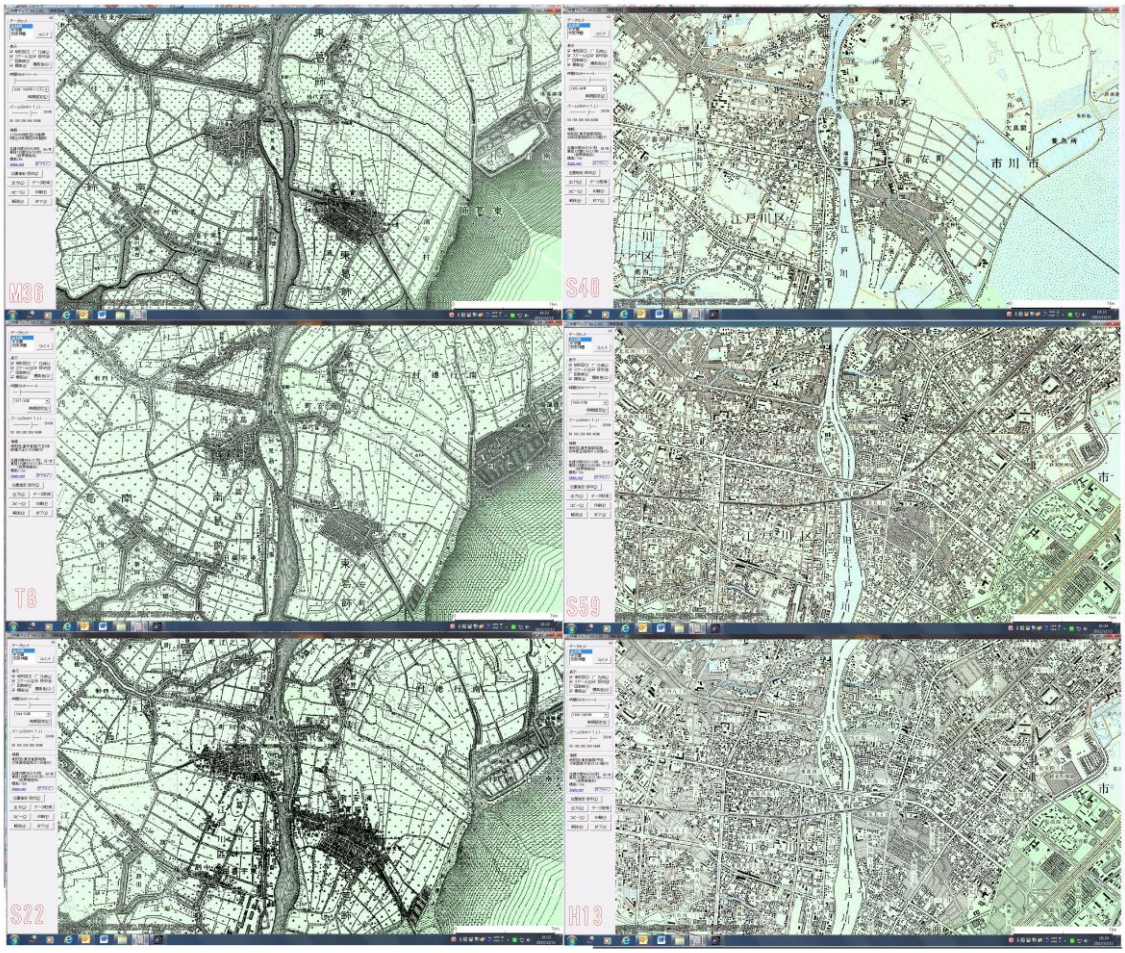
この間の浦安歩きの道すがらに江戸湾に面した漁村を感じさせる海苔を商う店のほか、焼き蛤やアサリを商う店にも出会うはずだ。

明治 38・39 戦役記念碑は、日露戦争後村民の間から戦勝を記念すると共に出征軍人の武勲を後世に伝えるため、記念碑を建立しようという声があがり、日露戦争時、第３軍司令官だった乃木希典に揮毫を依頼したもの。石碑表面の題字は「明治三七・八年戦役記念碑希典」とある。

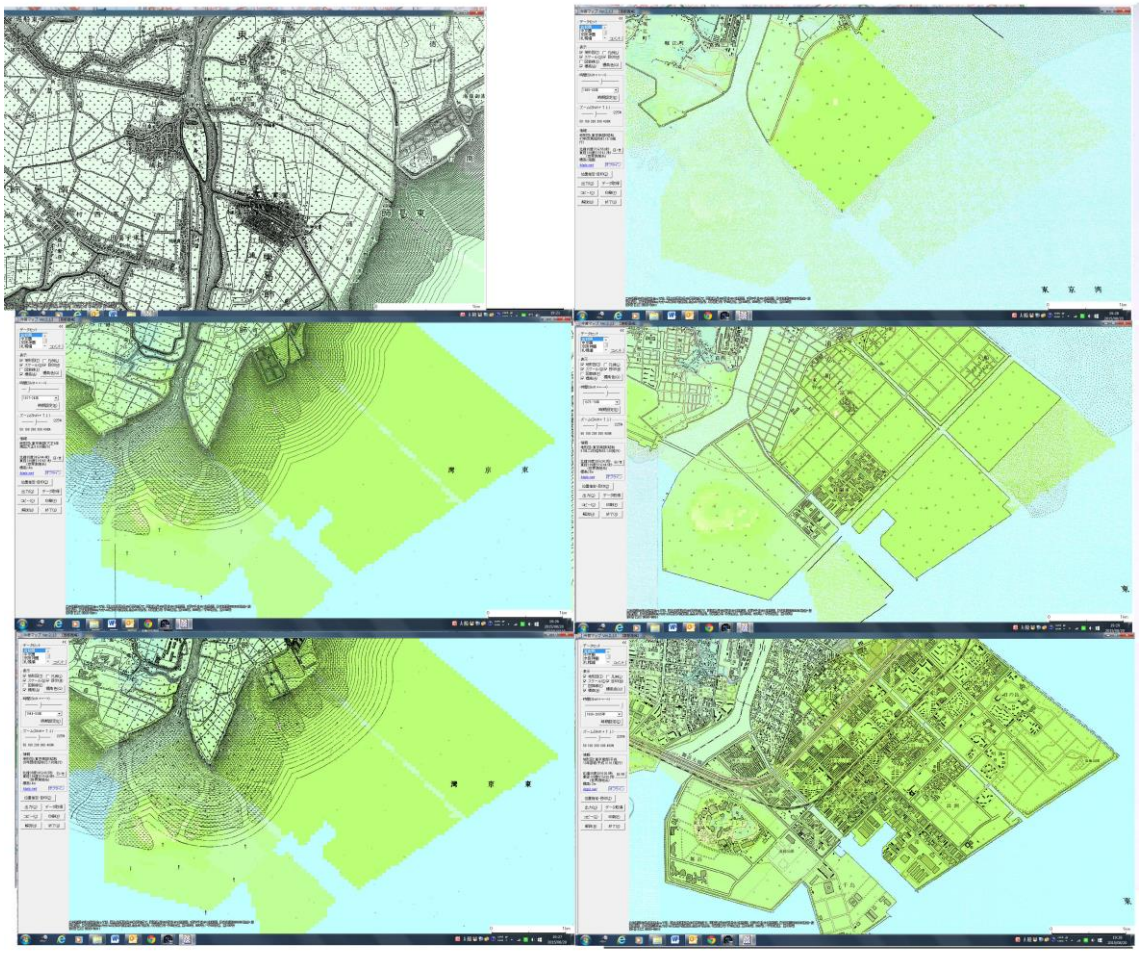
中央公民館周辺は堀江４丁目西境橋南と同様に、ゼロメートルの等高線が巻いていて、この辺りでは最も低いく凹地状になった場所である。旧版地形図からは、いずれも旧河道と思われる。

浦安の時系列（「東京首部」）

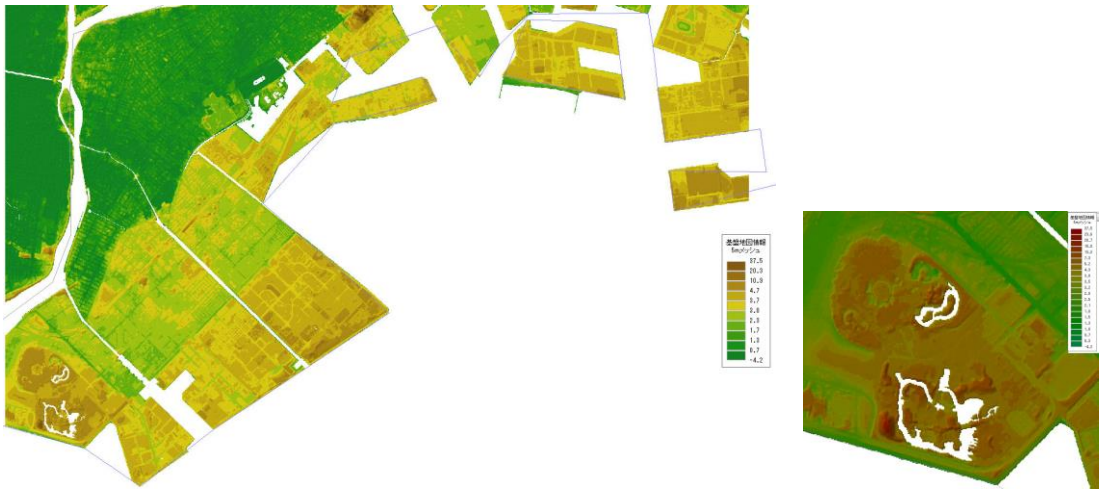
（左上から下へ M36・T8・S22、右上から下へ S40・S59・H13）



浦安南部の時系列（「東京南部」）



デジタル標高データで見る浦安と東京デイズニーランド



その 83-2　浦安元町（ほんとうの浦安？）めぐり　（距離約 5.5km）

【道順】

　東京メトロ東西線浦安駅→浦安市場→善福寺→稲荷神社→船扒緑道→当代島水門→当代島船宿→境川西水門→西境橋→清瀧神社・大蓮寺→堀江フラワー通り・旧宇田川家住宅→旧大塚家住宅→旧濱野医院→東学寺→境橋→豊受神社（大イチョウ・富士塚）→猫実の庚申様→焼き蛤さつま屋→明治 38・39 戦役記念碑（希典）・中央公民館→東京メトロ東西線浦安駅

+＊＊＊+　オフィス　地図豆　Yamaoka　mitsuharu　+＊＊＊+